

ボールの特性レポート

BALL REPORT



ボール名	919C	投球者	徳江 和則	センター	平和島スターボウル
RG	2.530	△RG	0.049	●ピン ★PAP ✕CG ■バランスホール	

テストボール：919C

フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

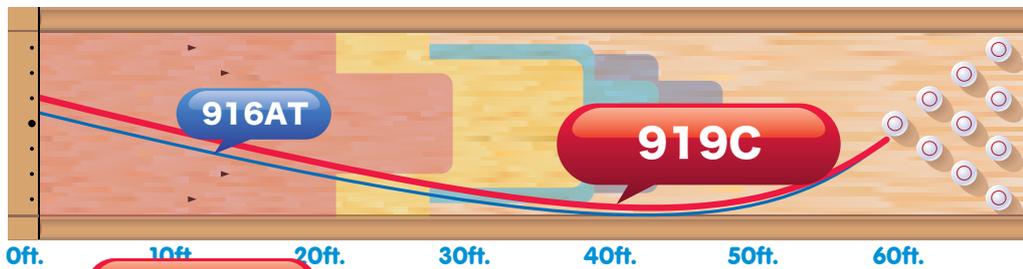
表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤

比較対照ボール：916AT

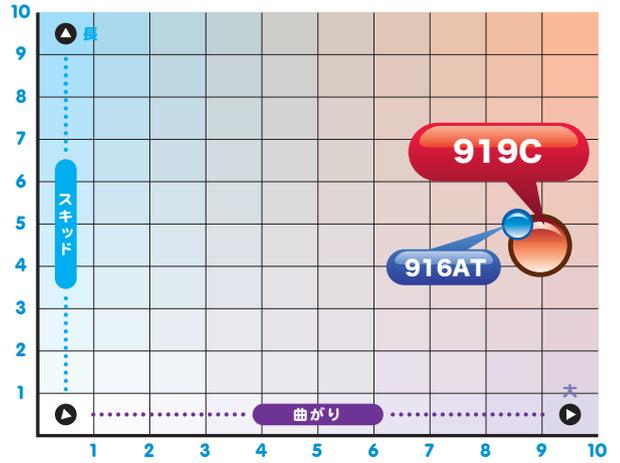
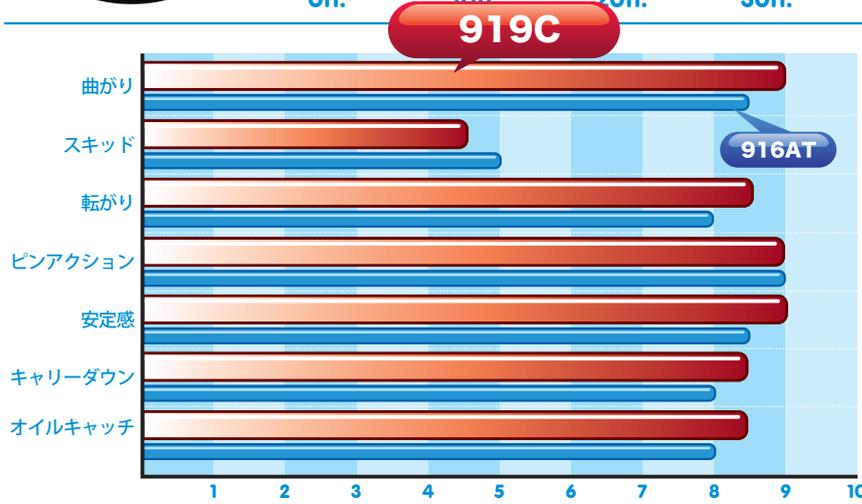
フレアーの幅 インチ

PAPからピンとの距離 4 インチ

表面加工
 箱出し状態
 加工
 ペーパー
 ポリッシュ
 研磨剤



- ヘビー
- ミディアム
- ライト
- バフ



レーンコンディション: Light Oil, Light to Medium, Medium Oil, Medium to Heavy, Heavy Oil

バックエンドリアクション: Smooth, Smooth to Arc, Arc, Arc to Sharp, Sharp Angle

レンジス: Early Roll, Early to Med, Med-Lane, Med to Late, Late Roll

ボールの評価

「Continuous Control」。先月発売された503Cにも謳われた「コントロールの持続性」。トラック社が新しく「Cシリーズ」に提唱したコンセプトは、テクノロジーの結晶とも言えます。

まず新しく採用されたNew Haze HP9Cカバーストックは、「Continuous Control」(コントロールの持続)させるために「Haze」という、オイルの濃淡での急激なリアクションの差を生み出さない性質のカバーストックで、持続的にキャッチし続け非常に安定してオイルを捉えることができます。そのカバーストックに独特の動きを生み出す「Edge Asymmetrical」コア。「9」というオイルに対しての強さを感じさせる為に、特にミッドエリアでの動き出しをイメージさせ、ピンヒットまで持続させる役目を果たしています。

私がこの919Cを投球し感じたことは、使用用途が広い「万能型」の性能であること。早いコンディションでもやや遅いコンディションでも使えるイメージを感じさせてくれるのも、新開発 Hazeカバーストックがオイルの濃淡を過敏に感じさせないことが対応幅を広く感じさせてくれるのでしょう。投球者がピンヒットまで「ボールをコントロールする」という観点で非常に優れていると思います。またピンアクションも柔らかく仕上がっていることも好印象です。

今回のこの919Cのボックスフィニッシュは500, 1000, 2000, 3000アブラロン仕上げですが、スピードが速めの方は#2000、スピードが遅めの方や回転数多めの方は#4000で、投球後ミッドエリアでの動き出しのイメージで表面加工を変えてください。

特記事項

ミッドエリアから得られる「Continuous Control」(曲がりの持続性)はピンヒットまで持続し、幅広いコンディションで安定した軌跡を供給します。コントロール重視のボールをお探しの方には是非使用して頂きたいボールです。